

■動く図書館 LINE アンケート集計結果について

1. 調査概要

- (1) 調査方法 市 LINE 登録者への LINE アンケート（調査対象者：96,536 人）
- (2) 調査期間 令和8年 1 月 15 日（木）～1 月 21 日（水）
- (3) 調査項目 動く図書館の認知度等 6 問（自由記入欄以外、重複回答不可）
- (3) 回答者 1,169 人

2. 集計結果

別紙1・2参照

(1) Q1（年齢）について

- ・アンケート回答者はおおむね市 LINE 登録者年齢構成と合致するが、市 LINE 登録者年齢構成に比べ、わずかではあるが 40 歳代までの回答割合が少なく、50 歳代～80 歳代以上の回答割合が高い傾向。

(2) Q2（居住区域）について

- ・動く図書館ステーション所在校区は認知度が高い傾向。巡回校区が増えれば認知度も向上する可能性を確認。

(3) Q3（豊中市に動く図書館車があることを知っているか）について

- ①設問項目 1～3 を加えると 81.4% の人が動く図書館を知っており、認知度は高い。
- ②実際の利用経験者は 26.8%。年代別にみると 30 歳代の利用が最も多く、回答者全体の年齢構成比から少し高い。年代ごとの認知割合で見ても、30 歳代で利用経験のある人の割合は 70 歳代に次いで高い。
- ③一方、動く図書館を知らないとの回答は 18.6%。30 歳代が最も多く、回答者の年齢構成比から見ても高い割合。年代ごとの認知割合では、20 歳代、10 歳代の回答者の半数近くが知らないと回答。30 歳代はこれらに次ぐ高さであり、一見すると上記②と相反するような結果となっているが、推測としては、当該世帯内に子どもがいるかどうかでこうした相反が生じるものと思われる。

(4) Q4（動く図書館を利用するとしたら、利用してみたいサービス）について

- ①設問項目 1～3 を合わせると 70.5%。動く図書館に期待する役割として、多くの人が実際に本や資料の受け渡しを行うアクセスポイントとしての役割を重視している。これらの項目を選択した人は、Q5（今後充実を求めるサービス）で「既存サービスの充実」を選択した人の 82.2% を占める。
- ②「レファレンスサービスの利用」は 1.8%。館でのサービスとの認識が強いのでは。
- ③おはなし会を選択した人のなかでは 30 歳代が最も高い割合であるが、かといって 30 歳代の回答者のなかで、おはなし会を選択した人の割合は高くない。
- ④9.3% の人が特にないと回答。これを選択した人は、Q5 では「さまざまな本との出会いをもたらす企画展など」、「キッチンカーなど民間事業との連携」を選択している人が多い。

(5) Q5 (今後、充実すればよいと考えるサービス) について

- ①「その場でゆっくり本が読めるような空間の整備」、「さまざまな本との出会いをもたらす企画展など」を選択した人はそれぞれ 23.5%、24.7%。「キッチンカーなど民間事業との連携」も 19.1%。「既存サービスの充実」(20.6%) に示される情報へのアクセスポイントとしての利便性向上への期待と同様以上に、まわりの屋外空間の活用等への期待も窺える。
- ②既存サービスの充実を希望する人では60歳代が最も多い。60歳代の回答者のなかでも、この項目を希望する人の割合が最も高い。

(6) Q6 (自由記入欄) について

- ①自由記入欄への記載は 440 件。主な意見内容と件数は下記のとおり。

| | 意見内容 | 件数 |
|----|--|-----|
| 1 | 現状のサービスへの満足や職員への謝意を示すものや、動く図書館の意義・役割等を認め、継続を希望する意見 | 132 |
| 2 | 巡回日時・場所等の拡充等を希望する意見 | 122 |
| 3 | 巡回日時や場所をよく知らないなど、もっと周知すべきとの意見 | 77 |
| 4 | サービスの充実など、もっと付加価値をつけるべきとの意見(上記2・3以外のもの) | 44 |
| 5 | 現状のサービスへの不満や改善を求める意見 | 7 |
| 6 | 一度利用してみたい等の意向を示す意見 | 14 |
| 7 | 自宅近くに図書館がある等、動く図書館にあまり必要性を感じないとの意見 | 16 |
| 8 | 費用対効果等に見合ったサービスになっていないのでは、廃止もやむなし、役割を終えたといった意見 | 11 |
| 9 | 既存図書館のサービス充実や整備を優先すべきとの意見 | 7 |
| 10 | その他 | 10 |

②自由記入の概要

- 利便性の高さや本に親しむ機会の提供、スタッフの対応、活動継続への要望など、全体的にはポジティブな評価、意見が多い。
- 改善要望としては、情報の周知不足、巡回エリア、日時等の拡大、蔵書の充実などについての指摘も多かった。
- イベントの実施や読書スペースの確保、コミュニティの拠点としての位置づけなど、付加価値を期待する意見も多い。
- その他、必要性を認めない、図書館サービスの充実を優先すべきといった否定的な意見も一定数存在する。

③主な記載内容

<上記1の主なもの>

- 動く図書館は、本に身近で親しむことができる、豊中の誇るべき財産です。本との

出会い、知を手にとって楽しむ機会を大切に持続してほしいです。

- 本が読める環境が、どんなところで住んでいてもあるというのはとても心強いことだと思います。
- 乳児連れだと、電車に乗って図書館へ行くのも一苦労で、特に本は重いので家の近くまで来てくださってとても助かっています。
- 子供達も移動図書館車が大好きです。本に親しむ機会が増え、また、色んな人が関わって本を運んで巡回してくれているという学びもあります。
- 人間だれしも年齢には逆らえず、また障害の有無でも活動範囲が狭まったりします。されど本を読むことの楽しさ、知を提供することの意義、それで字を覚えたり、社会に適応、貢献していく裾野を広げている活動だと思います。とても意義がある。続けてほしいです。
- 子どものころ、よく利用していて、移動図書館が来るのが楽しみだった。
- 移動図書館がやってきて、本があって、ベンチがあって、小さなお子さんやお年寄りも、それぞれに好きな本を手にとって楽しんでいる光景を、通りかかった人が微笑ましく眺めているような街っていいなと思います。大変なご活動だと思いますが、これからも続けてほしいです。

<上記2の主なもの>

- 他県で働いていた時、休憩屋時間に移動図書館が会社の駐車場に来ていました。そのような活動あればいいなあと思いました。
- フルタイムで働いており平日の図書館利用は困難。土日や隔週、月1回でよいから遅めの時間帯も利用できるとありがたい。
- もっと多くの公園に来てほしい。お年寄りや小さい子供が一人で歩いて行ける、本を好きになる楽しい機会を作ってほしい
- 病院や施設など、その場から移動できない方がいるところへ、来てほしい
- 我が家には医療的ケア児で重度心身障害児がいます。移動が大変ハードル高く図書館まで行くのが厳しいです。予約制で家の前まで来てくれる動く図書館があればもっと絵本や素晴らしい本を読んであげられるのになあと思っています。
- 活字離れが進んでいるのを実感するので、子どもにもっと本を読んでほしい。学校では子どもたちは図書時間が好きである。どこにいつ来ているかを、もっとうまく宣伝できないか？放課後や土日など、子どもが利用しやすい時間に多く車が来てくれると嬉しい。

<上記3の主なもの>

- いつどこを回ってるのか、知らない市民が多いかもです。
- 広報活動が乏しく市民の認知度が低い。また、豊中市各行政機関や他自治体との連携に欠け、活動範囲が狭小。
- 動く図書館の予定を豊中市のLINEで通知してほしい。
- 全く見かけた事がありません。いつどこを走っているのか、何分くらいその場にいるのかなど、詳しい情報がプッシュ型で届くと良いなと思いました。

- ・豊中つばさ公園などでのイベント出展で広報活動するのも良いと思います。

＜上記4の主なもの＞

- ・ブックトークやお茶会など参加型のイベントがあればよい
- ・コーヒーなど飲みながら ゆっくり読めたら嬉しい
- ・公園の緑の芝生の上で動く図書館で借りた本を読むというのは素敵な感じかな？
- ・週末などは大きな公園に動く図書館があれば、お子さんやペットがいる家庭は遊んだり本を読んだりできて便利な気がします。紙芝居とかも楽しそうですね。ウォーキングやジョギングをしている方のちょっとした休憩ポイントにも良いのではと思います。健康や体操の読み物やワンポイントアドバイスなどが提示できると、利用者も増えるのではないのでしょうか？
- ・動く図書館が来る時間帯に地域の人が集まって交流の場となるような機会になると良いと思う。
- ・イベントに付随してキッチンカーや読み聞かせなどがあれば楽しそう。幼児の世代を分けて(1歳、2歳から3歳、など)やってもらえると見る絵本が異なり子ども楽しめるし、親の交流にもなりそう。
- ・公園、広場などで実施して、子供を遊ばせながら、雑誌、新聞、本を読める、子供への読み聞かせ企画など、子育て支援に繋げてほしい。
- ・子供がいつも同じ本を借りてしまうので、読み聞かせや本の紹介などを通じて子供が新しい本に興味を持つきっかけができるといい。
- ・子供がいっぱい集まる場所になってほしい。
- ・司書が説明やお薦めなどしてくれたら良いなと思います。
- ・本の選抜は大変ですが、いろんな種類の本があると嬉しいです！
- ・新刊を中心に、オススメなどを揃えてもらえたら嬉しいです。
- ・おとぎ話みたいなかわいい動く図書館
- ・図書館機能だけでは物足りない
- ・リサイクル本の販売
- ・予約とかの検索機があればいい

＜上記5の主なもの＞

- ・車への段差が少しつらくなっています。手すりはあるけど使いにくいです。改善していただくと、うれしいです。
- ・通路が狭いし、乗り降りが揺れるので、側面が開いて降りてくるような設備があって、車内に乗り込まなくてよければいいのと思いました。
- ・積まれている本の変化があまりないので、定期的に入れ替えてほしいです。
- ・予約確定後に予約のキャンセルができないことが不便。結局平日の昼の短時間しか稼働していないので、便利なようで全く便利ではない。それなら駅などで予約本の受け取りや返却をできるようにしてくれる方がよほど便利。
- ・あまり、時間や場所を変更しないで欲しい。

＜上記6の主なもの＞

- ・今後も楽しいイベントがあれば、ぜひ参加したいです。
- ・まだ使用した事がないので一度利用してみたい。
- ・今は図書館を利用していますがもっと高齢になったら動く図書館も利用したいと思
います。

＜上記7の主なもの＞

- ・平日職を持っている私には動く図書館のニーズはあまり感じられない。毎日の利用
駅に豊中 SP ができて、大変ありがたい。
- ・やはり図書館に行って自由に選ぶのに勝るものはない。たまたま見かけたらゆっく
り本でも読んでみようか、ぐらいいい使い方しかないと思う。図書館が近くに無い
方、移動が難しい方にはあってもいいかもしれないが、予約の受取の申し込みやそ
の時間にピンポイントに来れる人は従来の図書館利用で十分だと思う。

＜上記8の主なもの＞

- ・豊中は市域も狭く、交通機関も一定充実しているうえに市内にたくさん図書館があ
るので、行政コストをかけてまでの必要性を感じない。
- ・昔と違って多様な本の借り方や、電子書籍が増えてきた現状、また電動アシスト自
転車等の登場による移動手段の多様化など時代の変化を考えると、移動図書館とい
うシステムは一定の役割を終えたのではないかと思います。既存の図書館自体も今
後は本を借りるのみならず、地域コミュニティの拠点としての役割のほうが重要だ
と考えます。
- ・以前の居住地ではブックポストが駅や商業施設内にあり、生活の動線上で本を返却
することができました。ごく狭い範囲に当てはまる利用者層にサービスを充実させ
るのではなく、多様な生活者を想定したサービス設計を望みます。

＜上記9の主なもの＞

- ・決まった時間にその場所に行くというのは、天候に左右されるし、日々の様々な用
事の中では大変難しい。地域の図書館、サービスポイントをたくさん置いて、歩い
ていける図書館を充実させて欲しい。
- ・動く図書館を充実させることも必要な事とは思いますがせっかくある地域の皆さん
の拠り所となっている図書館を統合縮小させることは図書館本来の重要な部分
をないがしろにすることになると思います。

＜上記10の主なもの＞

- ・公園などで読み聞かせや、紙芝居などあればお手伝いしたいです。
- ・今の停車場所だけで市民は満足しているのか？というニーズは、利用している方・
図書館自体を使えていない方に聞くのが一番ではないかと思います。

3. 今後の取組みに向けて

- (1) 利用してみたいサービスとして70.5%の人が本や資料のアクセスポイントの役
割を選択。(上記2(4)①)
- (2) 今後充実を求めるサービスとして20.6%の人が「既存サービスの充実」を選択

- し、上記アクセスポイントの充実を期待。(上記2 (5) ②)
- (3) 実際の利用経験がある人は26.8%にとどまる。(上記2 (3) ②)
- (4) 自由記入欄で、巡回日時、場所等の拡充を要望する意見が多数(122件)あった。(上記2 (6) ①)

⇒やはり、動く図書館の基本的価値を体现する機能(貸出・返却など、市民の情報アクセスを保障する機能)の向上を図ることが重要

- (5) 18.6%の人が動く図書館のことを知らないと回答。(上記2 (3) ③)
- (6) 自由記入欄で、巡回日時、場所等をよく知らない、周知不足との意見が多数(77件)あった。(上記2 (6) ①)

⇒周知方法等のさらなる検討が必要

- (7) 今後期待するサービスとして、「その場でゆっくり本が読めるような空間の整備」、「様々な本との出会いをもたらす企画展など」を選択した人はそれぞれ23.5%、24.7%。「既存サービスの充実」(20.6%)を上回る。「キッチンカーなど民間事業との連携」も19.1%。(上記2 (5) ①)
- (8) 現状、利用してみたいサービスが特にないと回答した人(9.3%)も、今後充実を期待するサービスとして、「さまざまな本との出会いをもたらす企画展など」、「キッチンカーなど民間事業との連携」を選択する人が多い。(上記2 (4) ④)

⇒機動性や屋外空間での活動という動く図書館の独自性を際立たせる取り組みが期待されている

- (9) 利用したいサービスで「レファレンスサービスの利用」は1.8%にとどまる。(上記2 (4) ②)
- (10) 自由記入欄では、少数ではあるが、「司書が説明やお薦めなどしてくれたら良いなと思います」といった意見もあった。(上記2 (6) ③)

⇒館でのレファレンスサービスとは違う形で、司書が地域を巡回する動く図書館の特性を最大化できるような取り組みも検討